

令和8年度第1回旭川市史デジタルアーカイブ検討会 議事要旨

日 時 令和8年7月17日（金）午後6時00分から午後7時10分まで

場 所 旭川市総合庁舎2階 臨時窓口スペース

出席者 参加者7人（50音順、敬称略）

海老名 尚、柿崎 美樹、桑野 紗耶加、澤崎 由依、谷口 雅彦、
田村 貴史、森田 大斗

事務局5人

総務部次長 金、総務課課長補佐 岡田、総務課主査 安江、
総務課 西村、松本

傍聴者0人（市民0人、報道0人）

議 事 1 事業の進め方
2 その他

発言要旨

※議事に入る前に、参加者紹介、進行役選出を実施

議事1 事業の進め方

※事務局から事業の概要、今後の予定等を含め、議事について説明し、参加者から本事業に対する感想や意見の交換を実施
参加者の発言要旨は次のとおり

（参加者）

- ・（デジタルアーカイブは）新旧の写真の比較など工夫があって、旭川の知識が少ない自分でも楽しむことができたが、子どもや若い世代にはまだまだとっつきにくさがあると感じる。
- ・社会科教育に関心ある立場として、子どもに近い目線で、アイヌなどの文化を親しみやすく伝えられるコンテンツは何かということを、自分なりに考えていきたい。

（参加者）

- ・小中学生に知ってもらうためには、まずは教員に知ってもらうことが重要。
- ・授業で触れられることは限られているが、現在は1人1台のタブレット端末が支給されており、家庭学習につなげていくなども考えられる。
- ・社会科の教員が集まる研究会などで直接説明し、周知してはどうかと感じた。

(参加者)

- ・デジタル化された「写真」のオリジナルが、実際に「写真」なのか「コピー等の印刷物」なのかということは、今後には原資料の情報が正しく整理され、保存されるためには大切なことなので、今の時点からでもできる限り情報の精度を高めていくべき。
- ・貴重な写真があっても複写はあるが原資料の所在がわからない、原資料を毀損し廃棄した、などの話を聞いたことがあり、デジタルアーカイブの取組を通じて、原資料を正しく保存・管理することの重要性を周囲に理解してもらうような取組が必要と感じている。

(参加者)

- ・この話は重要で、デジタルアーカイブの方針のひとつとして、資料の整理と保存ということがある。
- ・資料の保存は、ただ箱に詰めて置いておけばよいということではなく、資料の情報が整理されていることが重要であり、この事業でそこまで到達することはできないが、将来的な方向性として押さえておかなければならないことと考える。担当課だけではなく、博物館等の社会教育部門の学芸員も含めて、組織的に対応すべき。

(参加者)

- ・旭川の歴史をインターネットで調べる際、「旭川」というワードの検索だけでデジタルアーカイブのサイトに辿り着けるようになると、もっと多くの人に見てもらえるだろうと思う。

(参加者)

- ・アーカイブをもっと多くの人に広めたいと強く感じた。メディア向けの周知は勿論のこと、一般に広く知られるための工夫を考えると良いと感じた。
- ・市が発信するアプリなど他の分野のデジタルツールなどとも連携して、サイトへつながる仕組みを構築すると良いと思った。
- ・トップページから例えば「農業」や「まつり」などといったテーマやカテゴリで、横串に検索できると使いやすいと思う。

(参加者)

- ・旭川には移住してきた家族のルーツや繋がりがあり、地域の歴史をしっかりと伝えていかなければならないと改めて感じた。
- ・過去の遺品整理を振り返って、今思えば処分しなければ良かったと思うような資料があったかもしれないと思った。今後そのような資料があれば協力したい。

(参加者)

- ・事業の説明では、令和7年度から9年度までの3年間を取り組みの重点期間と位置付け、これまでとこれからの取り組みを含めて事業のルールが敷かれていることがわかった。令和10年度以降、ルールに乗ってルーティンとして事業を継続していけるようにするためにも、現

在の土台づくりが非常に重要。

- ・令和8年度は既存の年表資料が途切れたあとの年代を対象として、年表作成に取りかからなければならない。どのような基準で資料を収集し、取捨選択して反映させるか、大変な作業を伴う。専属の人材を1名加えたという説明があったが、この年表整理が事業全体の柱となると考える。
- ・すでに学生の授業でも地図データなど有意義に活用できている。今後も多角的な利用が進むと良いと思う。

議事2 その他

意見・提案等の発言なし

以上